

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4691200077
法人名	社会福祉法人 希望ヶ丘福祉会
事業所名	グループホーム みどりの風
訪問調査日	平成21年5月18日
評価確定日	平成21年6月18日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

【認知症対応型共同生活介護用】

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4691200077
法人名	社会福祉法人 希望ヶ丘福祉会
事業所名	グループホーム みどりの風
所在地	霧島市 横川町 中ノ5645-1 (電 話) 0995-72-9054

評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番1号南光ビル303号
訪問調査日	平成21年5月18日

【情報提供票より】(平成21年4月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 19年4月25日
ユニット数	1 ユニット
職員数	17 人
利用定員数計	9 人
常勤	12人, 非常勤 5人, 常勤換算 5.6人

(2) 建物概要

建物構造	木造		
	1階建ての	1階	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	19,500~21,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷 金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	50 円
	または1日当たり		900円	

(4) 利用者の概要(4月1日現在)

利用者人数	9 名	1 名	女性	8 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名	
要介護3	2 名	要介護4	2 名	
要介護5	0 名	要支援2	0 名	
年齢	平均 86.6 歳	最低 77 歳	最高 94 歳	

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	伊東内科クリニック 永利歯科
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

霧島の山々を望む高台に、母体である特別養護老人ホームに隣接して建てられたホームである。小規模多機能ホームとは扉一枚でつながっており、日中は開放して相互に自由な行き来ができる空間となっている。小規模多機能ホームの利用を経て入居に至る方も居られるなど、互いの連携・協力も密に行われている。回想法を積極的に取り入れたケアを行っており、入居者は昔ながらの梅干しや味噌づくりを行ったり、広々とした裏庭の菜園で季節の野菜や花々を栽培するなど、思い思いの暮らしを実現している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p><現状に即した介護計画の見直しについて> 定期的な見直しのみを行っていたが、前回評価での指摘を受けて、入居者の状態に変化が見られたり、ニーズが変わった場合などには、現状に即した新たな計画を作成するように改善している。</p>
	<p>① 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は管理者が中心となり、職員に聞き取りをしたり意見を出してもらった上でまとめ、職員会議などで公開している。評価を実施する意義についての職員の理解や、具体的な取り組みは今のところ十分とは言いがたい。今一度、評価の意義や目的を再確認して、職員全員で取り組むことを期待したい。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、併設の小規模多機能ホームと合同で開催しており、関係各位の出席を得て開催している。日頃の取り組み内容や外部評価結果等、必要な報告を行うとともに、出席者から地域交流会開催の提案や地域の運動会やゲートボールへの参加を促す意見が出されるなど、サービス向上に活かされている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>多くのご家族が参加される敬老会等の際に、一緒に食事を食べながらゆっくり話をする機会を設けており、意見や要望等を聞いている。また、ご家族が面会に来られた際にも、日頃の入居者の様子を話すとともに、ご家族からも話を聞くように心がけている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>立地的に日常的な地域との交流は難しい面もあるが、地域の運動会やグランドゴルフの集まりに積極的に参加している。また、入居者の自宅に遊びに行き、近隣の方々と一緒に食事を作り、日中ともに過ごす取り組みなどを行い、地元の人々との交流に努めている。</p>

2. 評価結果詳細

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人としての基本理念に加え、地域密着型サービスとしてのホーム独自の運営理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼や職員会議の際、管理者は職員に対して運営理念を伝え、特に残存能力を見極めた、その人に合ったケアを目指して日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	立地的に日常的な地域との交流は難しい面もあるが、地域の運動会やグランドゴルフの集まりに積極的に参加している。また、入居者の自宅に遊びに行き、近隣の方々と一緒に食事を作り、日中ともに過ごす取り組みなどを行い、地元の人々との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は管理者が中心となり、職員に聞き取りをしたり意見を出してもらった上でまとめ、職員会議などで公開している。評価を実施する意義についての職員の理解や、具体的な取り組みは今のところ十分とはいえない。	○	自己評価におけるひと通りの過程を、職員全員で取り組むことで、日頃のケアの振り返りや見直し、気付きの機会となる。今一度、評価の意義や目的を再確認して、職員全員で取り組むことを期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、併設の小規模多機能ホームと合同で開催しており、関係各位の出席を得て開催している。日頃の取り組み内容や外部評価結果等、必要な報告を行うとともに、出席者から地域交流会開催の提案や地域の運動会やゲートボールへの参加を促す意見が出されるなど、サービス向上に活かされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市福祉課及び地域包括支援センター職員が運営推進会議へ参加していることに加え、訪問の際には一緒に食事を食べたり、敬老会等の行事に参加するなど、日頃からお互いに行き来しながらサービスの質向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月ホーム便りを発行しており、入居者の日頃の暮らしぶりやイベントの様子、新しく入った職員の紹介等を行っている。ホームを訪れるご家族も多く、面会の都度、健康状態等を伝えている。金銭管理については、ご家族に金銭出納帳を見られているが、確認印やサインはいただいている。	○	後日のトラブルを回避する意味からも、ご家族に金銭出納帳を見もらった際には、確認印やサインをいただくなど、確認の証跡を残すことを検討していただきたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	多くのご家族が参加される敬老会等の際に、一緒に食事を食べながらゆっくり話をする機会を設けており、意見や要望等を聞いている。また、ご家族が面会に来られた際にも、日頃の入居者の様子を話すとともに、ご家族からも話を聞くように心がけている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の異動は開設以来1名のみであり、原則として行っていない。やむを得ず職員の入れ替わりがあった場合は、できるだけ引継ぎの時間を確保することで、入居者へのダメージを防ぐように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の職員会議の時間を利用した勉強会や正職員によるパート職員へのOJTに加え、法人内の事例発表会や外部研修会に参加している。		研修機会は十分に確保されているが、職員の知識や経験、習熟度等の段階に応じて計画的に育成することで、さらなる資質の向上を目指していただきたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会主催の研修等への参加に加え、近隣のホームとの相互訪問も実施しており、相互に情報交換等を行いながら、ともにサービスの質向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	併設の小規模多機能ホームと日常的に交流があり、入居を希望される方で待機中は小規模多機能ホームを利用していただく方もあり、職員や入居者と顔馴染みになり、ホームの雰囲気にも徐々に慣れていただいている。その他の方に関しても、事前に見学していただいたり、職員が自宅や入院先を訪れるなどして、馴染みの関係を築いた上で利用を開始するように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	毎月の行事予定の中に必ず回想法を組み込み、味噌作り、梅干し作り、ちまき作り、季節の料理等々を入居者から教えていただきながら楽しむなど、お互いに支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の言葉や表情に常に注意を払い、「何故そのような言動をされるのか」と考えて、思いを汲み取るように努めている。表現が困難な入居者の場合は、職員の観察やご家族から生活歴等に関する話を聞くなどして、それぞれの思いの把握を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケース記録に入居者の日々の様子を記入し、朝・夕の引継ぎの際に申し送っている。これらの記録を参考にしながら、入居者本人及びご家族と話し合い、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月毎の定期的な見直しのほか、入居者の状態変化や職員の日々の観察を参考にして、必要に応じて見直し、現状に即した新たな介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	小規模多機能ホームと一体となった運営や隣接する特別養護老人ホームのデイサービスとの交流、かかりつけ医の受診支援、協力医療機関による訪問診療等、本人やご家族の状況及びその時々要望に応じて柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族の希望を大切に、入居前のかかりつけ医を基本的に継続して利用していただいている。状況に応じて、外来受診や往診など適切な医療が受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期を迎えた入居者の介護経験もあり、入居時及び状態変化の際に、かかりつけ医やご家族と話し合いを重ね、その都度お互いの方針を確認しながら共有している。看取り介護の指針や同意書も整備している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の尊厳やプライドを損ねるような言葉かけや対応を行わないように、接遇研修等により職員への指導を徹底している。個人情報の取り扱いに関しては、入職の際に守秘義務に関する誓約書を提出させており、個人ファイル等の記録類は適切に管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	行事の関係で入浴時間等を変更する場合はあるが、単に職員の都合ではなく、入居者のペースに合わせて起床や食事の時間をずらすなど、入居者本位の暮らしの支援に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえや配膳、下膳等、入居者の状態に合わせて一緒にできることを支援している。買い物にも入居者と一緒にドライブを兼ねて出かけるなど、食事が楽しみなものとなるように支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	少なくとも週に3回は入浴していただくように、チェック表等を活用しながら支援している。入浴時間や順番は、なるべく入居者の希望を優先しているが、行事等の関係で希望に添えない場合は、説明し納得していただくように配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者それぞれの生活歴や趣味、得意なことを活かしながら、季節ごとに梅干し・味噌・豆腐づくりを行ったり、料理や洗濯、掃除等の家事、庭の草取りなどを通して、役割、楽しみごと、気晴らしの支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日当たりの良いデッキスペースや広い裏庭など、入居者はそれぞれのペースで自由に過ごすことができる。日によっては、入居者とともに竹の子掘りや買い物、ドライブなどに出かけて楽しんでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や玄関の施錠は原則として行っていない。小規模多機能ホームとも自由に行き来することができ、職員の見守りのもと、デッキスペースや裏庭など、思い思いの場所で自由に過ごすことができる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	隣接する特別養護老人ホームと合同で夜間想定を含めた避難訓練を年に2回実施し、入居者が昼夜を問わず安全に避難できる方法を身に付けている。立地上、地域との連携より隣接施設との連携を優先しており、地域への働きかけは今のところ特に行っていない。		隣接する特別養護老人ホームをはじめ、警察や消防等の関係機関及び地域の人々も含めた災害時の協力体制について、運営推進会議等で検討していただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表を活用して、食事や水分の摂取量を個々に把握している。栄養バランスに関しては、法人の栄養士に献立を見てもらい、必要な助言・指導を受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングやデッキスペース等の共用空間からは、雄大な霧島連山を望むことができる。また、裏庭には野菜や花が植えられており、日常的に季節を感じながら居心地よく過ごすことができる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビや使い慣れた椅子、ご主人の遺影など、思い思いの品物を持ち込んでいただき、居心地の良い居室となるようにご家族とも協力しながら工夫している。		